

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
ふるさとを大切に、たくましい有田っ子の育成	①進んで学ぶ子ども(知) ②健康で元気な子ども(体) ③心豊かで礼儀正しい子ども(徳) ④ふるさとを大切に子ども(郷土愛)

達成度 A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

①進んで学ぶ子ども(知)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	・基礎学力の定着 ・指導方法の改善	・CRTテスト(国語、算数)の全領域において全国平均を超える。	・朝読書や国語・算数のスキルタイムを確実に実施したり、全児童に音読集を持たせ、暗唱に取り組みせたりする。 ・国や県の学習状況調査を分析し、教師の指導力向上のための支援や本校の課題に応じた学力向上対策の計画立案、実行を継続的に行う。	B	・CRTテストでは、6学年中4学年が国語で全領域、算数では6学年中3学年が全領域で全国平均を上回った。 ・国語タイム、算数タイムは級外、管理職も学級に入り、複数体制指導した。 ・夏季休業に学習状況調査の分析の研修を行った。	・有田中学校校区3校で、職員の合同研究会や、相互に授業研究会に参加しながら、小中連携を推進していく。 ・さらに主体的・対話的で深い学びを目指す授業の充実を図る。
	○読書の推進	・読書習慣の確立	・読書指導の量的質的充実を図り、図書の一冊当たりの年間平均貸出数が85冊を超えるようにする。	・学年別に図書貸出し数の目標を設定し、各学年の実態に合った必読書を紹介し、読書の量と質を高める。 ・音読集を、年6回金曜日の朝に行う。	A	・全体の図書貸出し数は、一人当たり100冊を超え、目標を大きく上回ったが、読む本の内容が偏る傾向が見られた。 ・音読集や、暗唱は、児童の読書への意欲にかなりの効果があった。	・日常的な読書指導に加え、各教科で学んでいる内容に関連した本を読むことを励行していく。 ・図書委員会での主体的な活動(図書館祭り・読み語り・おすすめ本の紹介等)を推進していく。
	○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	・ICTを活用した効果的な指導方法の追求	・校内でICT研修会を開き、活用方法の周知と技術向上を図る。	・タブレット導入・来年度からのプログラミング教育実施に向けて、ICT活用の研修会を継続して行う。	B	・デジタル教科書を積極的に活用した授業を行うことができていた。 ・「ICTを活用し学力向上に努めた」と76.8%の職員ができたと答えている。 ・タブレット端末(クロムブック)が2学期から導入されたが、まだまだ使いこなせてはいない。	・本校教諭によるICT活用推進リーダーを集めた授業研究会の開催、タブレットを使った調べ学習、体育での動画の利用等、活用方法が広がりはあるが、まだ職員全員が使いこなすまでには至っておらず、計画的・継続的な研修が必要である。
学校運営	○教職員の資質の向上	・授業研究の推進	・全職員が、グループ研・事前研修を実施し、より深まった指導案で授業公開(研究授業)ができるようにする。	・学び合いの場の充実を図る研究を深め、講師による指導助言を受けながら、より良い授業のあり方を研修する。 ・町内の小中学校の更なる連携を深め、合同研修会を行う。	A	・部会での指導案検討、全職員での事前研や模擬授業など、どの学年の研究授業も全職員で授業づくりをしていくことが定着し、活発な議論ができた。 ・夏季休業中に計画していた中学校区全職員での合同研修会が豪雨のためできなかった。	・少人数を強みと捉え、児童同士が積極的に考えを伝え合い深める学習を進めていく。そのための教師の指導、支援のあり方について更に研究を重ねていく。 ・今年度までの校内研究をもとに、さらに小中連携をいかに学力向上のためにできることを探っていく。

②健康で元気な子ども(体)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	・望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	・朝食をとって登校する児童の割合を、95%以上にする。	・たより給食(保健)やアンケートを通して、朝食をとることの意義の理解と啓発を行うとともに、おにぎり持参給食の日を2回設ける。	A	・「きちんと朝ご飯を食べて登校している」の回答が96.8%であった。 ・計画にはなかったが、有田焼の着置きプロジェクトからの要請があり、食育出前授業を行った。	・手作り弁当持参給食の実施や食育講演会の実施によって、食の自立を意識した継続的な啓発活動を行う。
学校運営	○危機管理体制の整備	・安全管理、安全指導の徹底	・「危機意識を持ち、児童の事故防止、安全確保について具体的に指導した」と回答する職員が85%以上にする。 ・児童の危機意識を高める。	・外部講師による服務及び危機管理研修会を実施する。 ・年3回の避難訓練、交通安全室を実施する。 ・通学路の点検、防犯ふれあい隊との連携等により、交通事故や不審者による被害を防ぐ。	A	・安全管理・安全指導について具体的に指導できた職員は100%だった。 ・外部講師による研修会、避難訓練、交通安全室については、計画的に実施できた。 ・町教委等の関係機関との連携により、通学路の安全点検を行い、交通事故の危険の他、狭い人通りの少ない道の危険を確認できた。	・集団登校、ふれあい隊(見守りボランティア)、警察等と連携して、日常的な安全確保を進めていく。

③心豊かで礼儀正しい子ども(徳)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	・人権意識の高揚	・友達の良さや自分の良さを実感できる児童の割合を90%以上にする。	・道徳の授業の充実(ふれあい道徳などの公開授業)やふれあい活動(縦割り班活動)の中で、思いやりの心や感謝の気持ちを育てる。 ・一人一人の良さを認め、褒めて伸ばすことを心がけ、指導が必要ときは速やかに対応する。	A	・全学級、授業参観で、ふれあい道徳を実施した。 ・「自分や友達を大事にして仲良く過ごせた」児童が93.6%であった。 ・ふれあいタイムが計画的に実施できた。	・縦割り班での活動をさらに充実させ、異学年での関わりを多くする。 ・ふれあいタイム(共遊)、ふれあい給食、ふれあい掃除を、今年度途中から1日を通して実施した。来年度も継続していく。
	●いじめの問題への対応	・いじめの早期発見・早期対応に向けた職員・保護者・地域の体制づくり	・情報のネットワークを広く保ち、いじめ事案等の早期発見に努める。 ・児童が心配や悩みをいつでも気軽に相談できる体制を整備する。	・毎週1回「子どもを知る会」を開き、気になる児童の情報交換と共通理解を図る。 ・Q-Uテストや毎週の「元カカード」の結果をもとに、関係職員と協力・相談しながら、児童理解に努める。必要に応じて個人面談を行い、一人一人の児童と担任等との対話を積極的に行う。	A	・「子どもを知る会」では、登校時の児童の表情や、学習への意欲など細かいサインを見逃さない未然防止の意識が高まった。 ・「困ったことがあったときには、友だちや先生に相談している」と回答した児童が73.4%にとどまった。	・「子どもを知る会」を充実させ、情報交換にとどまらず支援のあり方について検討していく。 ・気になる児童については、早急にケース会議を開き、情報を共有し、全職員で指導にあたる。 ・担任と全員の児童の面談を設定する。
	○特別支援教育の充実	・支援を必要とする児童への支援体制の充実	・校内支援委員会(ケース会議)により、支援体制の充実が図られたとする教職員が90%以上にする。	・特別支援教育に関わる研修会を年3回以上設定し、専門的知識を深め、適切な対応ができるようにする。 ・校内支援委員会を必要に応じて身軽に開催できるようにする。	B	・「校内支援委員会や子どもを知る会で、気になっていた児童について共通理解を図られた」とする職員は、100%だった。 ・ケース会議やSCやSSW、巡回相談、医療機関とも連携することができた。 ・夏季休業中の研修が豪雨でできなかった。	・今年度のように関係機関と連携をとりながら包括的な支援を継続させる。 ・児童の支援が後手にならないように共通理解を図っていく。
	○生活指導の充実	・生活管理と安全教育の推進	・あいさつ、廊下の安全な歩行、無言掃除などができた、という児童が90%以上にする。	・「有田っ子プライド」(月目標)を職員間に共通理解を図り、指導を徹底する。 ・職員があいさつ運動(毎月1日・20日)を実施する。	B	・「気持ちの良い挨拶ができた」児童は93.6%、「廊下や階段を静かに歩いた」児童は78.7%、「無言掃除ができた」児童は、85.1%だった。	・あいさつはコミュニティ・スクールの機能を生かし地域ぐるみで取り組んでいくようにする。 ・校内での生活指導は、職員が共通理解のもと、生活指導主任を中心に根気強く指導を続けていく。

④ふるさとを大切に子ども(郷土愛)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●志を高める教育	・地域の教育材(人・物・事)を活用した教育活動の推進 ・ふるさと有田に誇りを持ち、地域に感謝し、夢に向かって努力する気持ちを高める教育活動の推進	・地域の人材を活用した教育活動や地域学習を1学級1学期に1回以上実施する。	・世界に誇れる有田焼をはじめ、地域の人的・物的教育資源を活用し、体験活動を重視した学習を継続して行う。	A	・各学年に一人ずつ焼き物作りの講師を招き、成型、絵付け、窯焼きまで、年間を通して連携した活動できた。 ・焼きもの作りだけでなく、有田焼着置きプロジェクトとの食育、有田まちづくり社から有田の魅力を学ぶ講話等、幅広い学習ができた。	・現在の教育計画を生かし、担任が無理なく取り組める年間計画を作成し活用できるようにする。 ・有田を知る活動(物・事)のさらなる充実を図る。
学校運営	○情報発信	・PTA、保護者、地域との相互理解と連携の推進	・学校、学級の生活や様子について子どもと話し合う保護者が90%以上にする。	・学校HPや「はなまる連絡帳」、学校だよりや学級だよりの充実を図る。	A	・「学校学級の生活について、子どもとよく話をしている保護者」の割合が97.9%だった。 ・学校HPの更新及び学校便り等の発行は定期的なできた。	・学校HPや、学校連絡メール等を活用し、定期的に新しい情報を発信する。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・校務等の効率化の促進	・各分掌間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取組を推進するとともに、教職員の時間外勤務について1か月当たり(一人当たり)45時間とする。	・サーバー内の情報を共有化し、業務の均一化を図る。 ・定時退勤日(水曜)を明示するとともに、他校の取組等提示し、意識の向上を図る。	A	・教職員の時間外勤務時間平均は25時間前後を推移しており、時間外勤務削減ができた。 ・定時退勤日の推進もほぼできていた。	・一部の職員に校務分掌の負担が来ないよう、年度当初に担当を確認し、途中見直しを行う。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

・今年度、校長のリーダーシップのもと「有田大好き 進んで学ぶ さわやか有田っ子」を合言葉に、全職員が一丸となって学校目標の実現のため全力で取り組んだ。保護者、PTA、地域との連携も良好であった。
・「子どもを知る会」を毎週水曜日に実施し、「気になる子」についての情報共有・共通理解を全職員で図り、関わり方等について協議し実行していった。SC、SSW、医療機関との連携も速やかに行うことができた。全職員で共通理解し指導していくことができたことが、問題行動や不登校や重大ないじめの事案が起きなかった要因と思われる。
・来年度は、「小中連携を強化しながらの学力向上」「郷土愛を高める地域と連携した教育」「気になる子を中心に据えた特別支援教育の充実」を重点に、取り組んでいきたい。